

経済・金融 フラッシュ

企業物価指数(2014年12月)

～消費増税の影響を除くと、原油安で2ヵ月連続のマイナス

経済研究部 研究員 岡 圭佑

1. 消費増税の影響を除くと、原油安で2ヵ月連続のマイナス

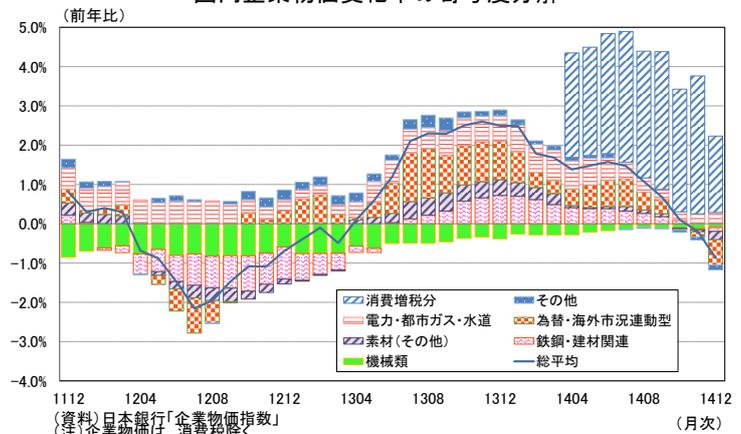
1月15日に日本銀行から発表された企業物価指数によると、2014年12月の国内企業物価指数は前年比1.9%（11月：同2.6%）と、事前の市場予想（QUICK集計：前年比2.1%）を下回る結果となった。前年比の上昇幅は6ヵ月連続で縮小し、前月比では▲0.4%となった。消費税分を除いた企業物価は、前年比▲0.9%と11月の同▲0.2%に続き2ヵ月連続のマイナスとなった。

消費税分を除いた企業物価を寄与度別にみると、機械類が前年比▲0.1%（11月：同▲0.1%）、鉄鋼・建材関連が前年比▲0.1%（11月：同0.0%）、素材（その他）が前年比▲0.2%（11月：同▲0.1%）、為替・海外市況連動型が前年比▲0.6%（11月：同▲0.1%）、電力・都市ガス・水道が前年比0.3%（11月：同0.3%）、その他が前年比▲0.1%（11月：同▲0.1%）となっている。

12月の企業物価が上昇幅を縮小したのは、鉄鋼・建材関連、素材（その他）、為替・海外市況連動型の寄与度が前月より低下したためである。為替・海外市況連動型の伸び率（前年比）は足元の原油安を背景として、2014年7月の前年比7.1%をピークに10月（同▲0.1%）にマイナスとなった後、12月にはマイナス幅が同▲6.4%まで拡大した。為替・海外市況連動型の内訳をみると、石油・石炭製品が前年比▲11.3%（11月：同▲4.2%）、非鉄金属が前年比6.5%（11月：同6.1%）となっている。為替・海外市況連動型が下落していることもあり、ガソリン店頭価格（レギュラー）は直近6ヶ月間で▲14.6%程度低下（7/14：169.9円→1/5：145.2円）している。

円安を上回るペースで原油安が進行しているため、消費税分を除いた企業物価（前年比）はマイナス圏での推移が続くだろう。

国内企業物価変化率の寄与度分解

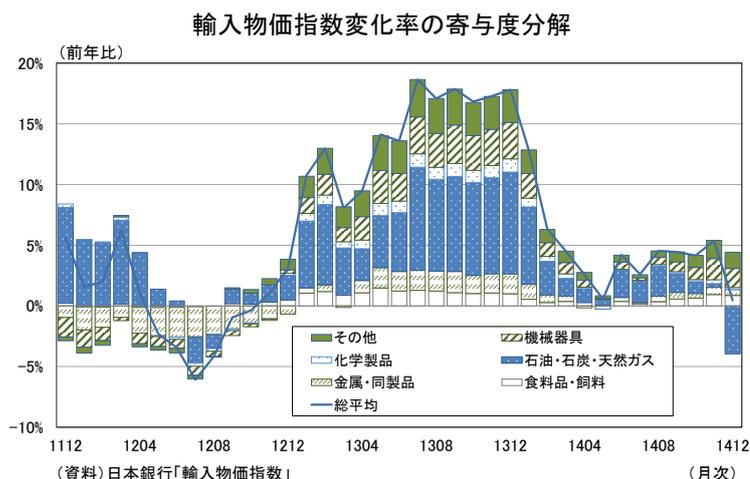


2. 輸入物価は大幅に鈍化

12月の輸入物価（円ベース）は前年比0.5%（11月：同5.4%）と上昇幅が縮小し、前月比では▲1.5%（11月：同2.8%）と再びマイナスに転じた。

12月の輸入物価を寄与度別にみると、食料品・飼料が前年比0.9%（11月：同0.9%）、金属・同製品が前年比0.5%（11月：同0.6%）、石油・石炭・天然ガスが前年比▲4.0%（11月：同0.3%）、化学製品が前年比0.2%（11月：同0.3%）、機械器具が前年比1.6%（11月：同1.7%）、その他が前年比1.3%（11月：同1.5%）となっている。

円安は物価押し上げ要因、原油安は物価押し下げ要因となるが、原油安の影響は円安に比べて後ズレする点に留意する必要がある。足元では円安が進行しているものの、ここに来て夏場以降の急激な原油安の影響が顕在化したため、円安による物価押し上げ効果が緩和され、伸び率を縮小する格好となった。輸入物価



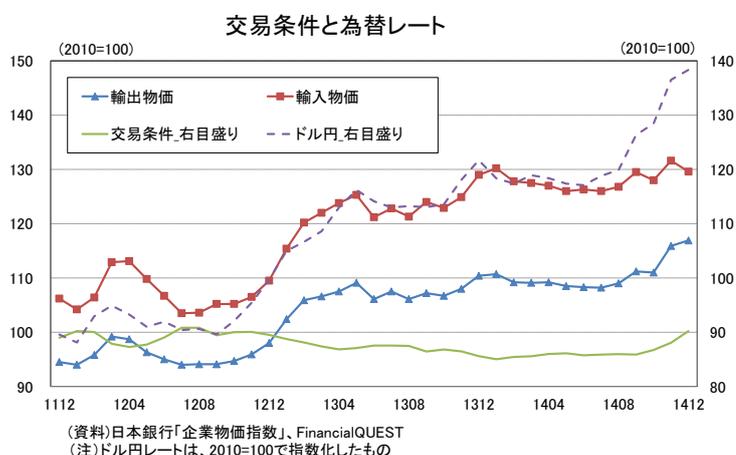
（前月比）がマイナスとなったのは、全6種中、石油・石炭・天然ガスを除く5種がプラスを維持したが、石油・石炭・天然ガスが原油安を背景に大幅に下落したためである（11月：前月比0.3%⇒12月：同▲6.4%）。円安の影響を受けやすい食料品・飼料（11月：前月比5.3%⇒12月：同1.1%）やその他の種別は前月の伸び率が大きかったが、円安の進展もありプラス幅を維持している。

足元では原油安に歯止めがかかっていないことに加え、日銀による追加緩和や米景気への回復期待をきっかけに進展した円安に一服感もあることから、輸入物価（前年比）はマイナスとなる可能性が高い。

3. 交易条件は緩やかに改善

12月の輸出物価は、前年比5.9%（前月比0.9%）、輸入物価は前年比0.5%（前月比▲1.5%）となった。一方、契約通貨ベースでは、輸出物価が前年比▲2.7%（前月比▲0.7%）、輸入物価が前年比▲9.0%（前月比▲3.2%）となった。

9月以降円安が進展したこともあり、輸出物価は円ベースで大幅な上昇となっているものの、輸出先における販売価格に相当する輸出物価（契約通貨ベース）



は、小幅な下落に留まっている。

12月の交易条件（輸出物価／輸入物価×100）は90.2（11月：88.1）となり、2012年1月以来の水準まで改善している。交易条件は円安、原油安を背景に緩やかな改善が見込まれる。

4. 最終財価格は鈍化

12月の需要段階別指数（消費税除く、国内品+輸入品）をみると、国内需要財価格は前年比▲0.6%（11月：同 1.2%）とマイナスに転じた。

需要段階別指数を項目別にみると、素原材料が前年比▲7.4%（11月：同▲0.1%）、中間材が前年比 0.6%（11月：同 1.6%）、最終財が前年比 0.4%（11月：同 1.1%）となった。海外市況を反映しやすい素原材料は、原油、非鉄金属など資源価格の下落が影響したこともあり減少幅を拡大した。中間財、最終財は、夏場以降の原油価格下落などを反映し、伸び率を縮小する格好となった。

今後、足元の原油安を主因とした素原材料価格の下落が後ズレして中間財、最終財価格に波及するため、最終財価格（前年比）はマイナス圏に落ち込むとみられる。

